

週日の説教

金 大烈 神父 2011年10月22日(土)

《弱さを認められる人 ～イエス様が選んだペトロ～》

今日の福音(ヨハネ 21・15-17)は、正式に祝日が定められる前ですが、「福者ヨハネ・パウロ二世のことを思い出しましょう」という意図で選ばれたものです。なぜヨハネ・パウロ二世のためにこの福音が選ばれたのか考えてみましょう。

イエス様は三度、「わたしを愛しているか。」とペトロにお聞きになりました。もしお父さんから「私のことを好きか。」と聞かれ、「はい、好きです。」と答えたのに、二度目、三度目も同じことを聞かれたら、どのような気持ちになりますか？ 私ならば腹が立ちます。そんなに私のことを信じてくれないのか、という気持ちになります。

使徒ペトロも、三度「私はあなたを愛しています。」と答えました。この時は、本当にそのような気持ちで答えたのでしょうか。しかしペトロは、同じことでイエス様を三度裏切ります。ですから聖書学者は、ペトロが三度ご自分を裏切れることをイエス様があらかじめ見せているのではないかと、言っています。イエス様は能力のある方ですから、「そのように私を愛していると告白しても、時が来るとあなたは三度私のことを知らないと言う。その時、あなたの心がどのくらい辛くなるのかを考えると私は悲しい。」という気持ちで、このようなことをおっしゃったのではないかと、という学者の説があります。もちろん、本当のことはイエス様でないと分かりません。ただ重要なのは、このような弱さを持っている人間をイエス様が選んだ、ということです。これは一つの希望です。力のある正しい人を選んだのではなく、弱虫で駄目だ、と認めている人を選んだのです。悪い人、弱い人ではなく、弱さを認めた人を選んだのです。

今日の福音をとおして考えるべきことは、“自分の弱さを認められる人が正しく生きられる”ということです。「自信がある」と思うのは、一番危険な誘惑です。それを意識しなければいけません。本当に自信のある人は、自分が弱い者であることを認めます。そこから正しい信仰が始まります。高慢で、自慢ばかりする人は、逆にそのくらい弱い存在だと宣伝していることになります。だから、声の大きい人を信頼しなくてもよいのです。その人たちに頼らなくてもよいのです。謙遜さは、そのように目立つものではありません。イエス様は、ペトロのような弱虫を選んで天国の鍵をお与えになりました。これは、私たちにとっては大きい希望になることを意識しましょう。

二つ目です。ペトロが「はい、わたしはあなたを愛しております。」と答えると、イエス様は「わたしの羊を飼いなさい。」とおっしゃいました。

それぞれの場所で指導者となっている人がいます。私たちが本当に祈らなければならないのは、善い指導者、善い導き手が現れるように願うことです。たとえば、家族の中で父親が滅茶苦茶だったら、その家族は絶対に上手く行きません。教室の中で先生が滅茶苦茶だったら、そのクラスの子ども

たちは正しく育ちません。教会も同じです。そして今、そのようなことが一番はっきり現れているのは政治の世界です。人々のため、国のために命を捧げる決心をして政治の世界に入る人は何人くらいいるのでしょうか。自分の欲を満たそうとする人たちばかりが政治をしているのです。だから人間の歴史はいつも、力のある者が有り余るほど物を持っているのに、力の無い者は死ぬまで物が足りなくて渴いた心で生きるしかないのです。

アフリカに飢えて死んでしまう子どもたちがいるのは、政治をする人々の中に正しい者がいないからです。どの国も同じです。世界の平和、国の平和、いろいろなことで苦しんでいる世界を考える時、まず、本当に善い神様の働き手を送ってください、と願うことが必要です。この教会でも同じでしょう。善い牧者、善い働き手ができて、あなたのみ旨に適う教会になれるようにお願いします、という切な願いが必要だと思います。

そして、前に立つ者には周りの支えと祈りが何よりも必要です。それを胸に刻まなければいけないことも覚えましょう。

ありがとうございました。